

# 【先-4】 鎌倉市‘地域経営型PPP’検討調査 (対象箇所:神奈川県鎌倉市)

【実施主体】鎌倉市 ①  
平成25年度

## 目的

鎌倉市では、年間を通じて訪れる多くの観光客を支える都市インフラや公共施設等の老朽化対策や、大地震等の備えとして求められる防災減災対策をはじめ、様々な課題を抱えているが、一方で、財政状況は一段と厳しい状況となっている。また、課題解決にあたっては、鎌倉市の特性から、行政主導により行う公共的整備に加え、歴史的風土との融合を図り、鎌倉の魅力を高めるための付加価値的整備が重要となる。このような状況の中、本調査では、その課題抽出から改修等手法の選定、資金調達及び実施までの一連のプロセスを可視化し、市民・観光客等の主体的参画を得る枠組み、方法論を、地域経営型PPPとして明確化する。

## これまでの経緯

- 市民協働の充実、地域力向上を目指し、平成19年度に、市民活動団体と市が協働事業を相互提案し、実施する仕組みを設けた。
- 平成23年度に「公共施設白書」、平成25年度に「鎌倉市公共施設再編計画基本方針」を策定し、今後の公共施設のあり方の検討を進めている。

## 目次

1. 本調査の背景と目的
2. 地域経営型PPPの制度設計  
課題解決フロー／課題抽出手法／プロジェクト候補化対象課題の認定手法／「課題・プロジェクト案」の提示手法／寄付金収納等の仕組み／寄付者へのコミュニケーション手法／モニタリング及び伝達手法／VFMの検証／運営主体／既存事業との関係明確化／新たな寄付手法についての検討
3. アンケート調査の実施概要
4. シンポジウムの開催～市民等との議論
5. 総括

## 施設の概要

【地域経営型PPPのプロセスの検討】

- ・避難路としての階段と手すり

【モニタリング調査】

- ・市道の無電柱化

【VFMの試算】

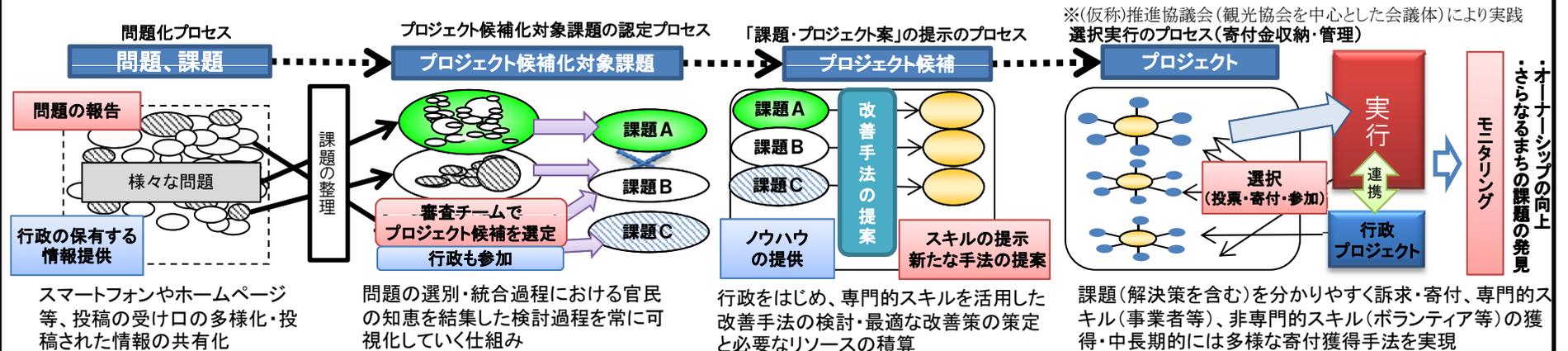
- ・公衆トイレとポケットパークなどに設置されるベンチ

## 結論

### ①地域経営型PPPの全体像

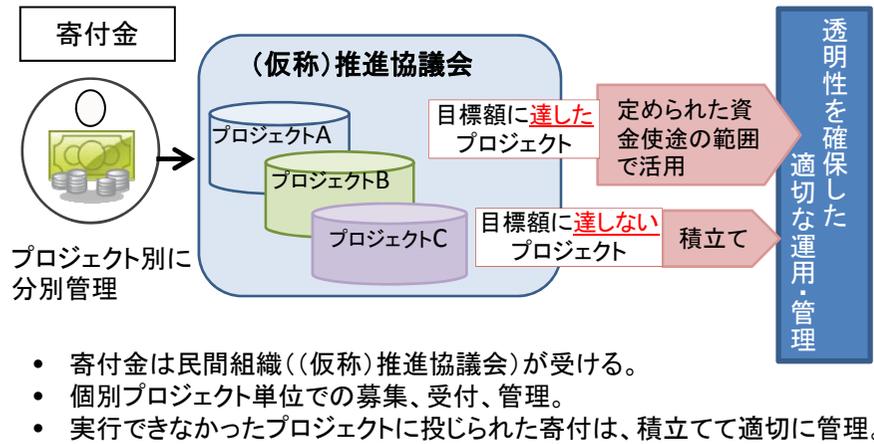
地域経営型PPPとは:市民・事業者・観光客等が公共施設の整備等に対して、地域課題の発掘(問題化プロセス)から実行(選択実行のプロセス)に至るまで参画・協働することによって、その知恵や技術、資金を活用する官民連携の仕組み。

民の役割 官の役割 問題化から改善プロジェクトの選択および実行までを一貫した官民連携※で推進する地域経営型PPP



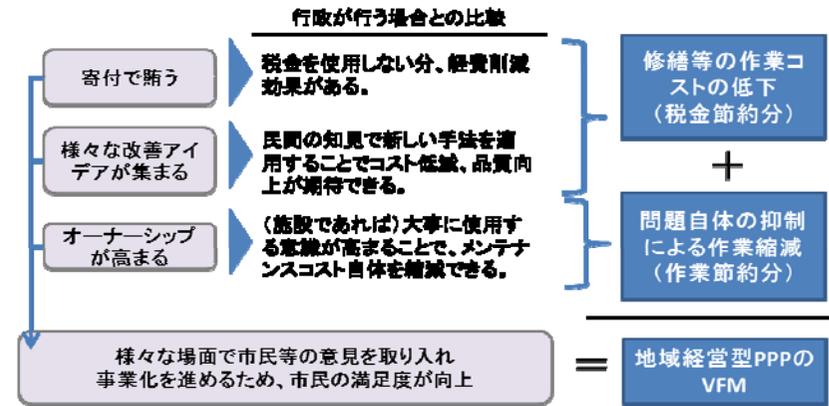
結論(続き)

②寄付金等の収納・管理・活用の仕組み



③地域経営型PPPにおけるVFMの考え方

地域経営型PPPの特徴は、コスト低減のみならず、問題の発生自体を抑制するメカニズムを組み込むこと。そのために、民主導のPPPプロセスを構築・運用する。



④モニタリング・PDCAサイクル

地域課題の発掘から実行までの過程に参加した市民等が、使用状況や劣化などの定期チェックに参加する仕組みを設け、市民等に「自らまちを創っている」といった意識を醸成。この意識がさらに「まちの問題・課題の発見」「解決へのプロセス」への参画へ繋がり、PDCAサイクルとしてこの仕組みを支えていく。

⑤考察：地域経営型PPPの効果

- (1)施設等管理のコスト低減と満足度向上の両立
- (2)まちづくりへ新たな市民・事業者・観光客層を呼び込める

幅広い市民等が関与し、全過程をオープンにすることにより、それぞれが一定の責任感を感じることで納得感も醸成されることになる。特に、オーナーシップの向上による効果が期待できる。

デジタルサイネージなど、新たな手法を活用することで、これまでまちづくりに参画していなかった層への働きかけを可能とするほか、寄付手法の活性化が誘発できる。

事業化に向けた今後の展望

■今後の予定

- ①市民・観光客等それぞれの鎌倉に対する想いを結集し、鎌倉のまちづくりを支援する鎌倉ファンクラブ(仮称)の創設と、これとの運動に向けたまちづくりの制度設計・調整(市民、NPO、市内の事業者、観光業者、行政等による多様なステークホルダーの参画→関係者協議、合意形成)
- ②オープンデータ等を活用したマーケティング、客観的評価の仕組みの確立(近隣地域の行政・市民・事業者との連携)
- ③具体的な施設等を取り上げ、課題を明確化、資金等獲得、改善アクションの実証
- ④行政内部の連携・調整による関与プロセスの明確化
- ⑤地域経営型PPPを推進する組織の設立。寄付金等の獲得、管理、活用、報告の実施など。

■課題

- 行政主導ではなく、市民、観光客の継続的な参画を得るための仕掛けづくり。
- 施設モニタリング、合意形成、市民相互連携等を低コストで実現する手法の開発。